（別紙4（2））

事業所名　グループホームハルジオン

作成日：　平成29年　3月31日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画に「施設サービス計画」「問題行動」と表記しているところがあり、表記のみでなく、言動から意識づける必要がある。	グループホームは家庭で生活している状態であることを再認識し、その方らしい生活について職員が支援する事を意識する。	ミーティング等ではもちろん、再認識の研修を開催すると共に、意識として、その方の今までの生活歴、スタイルを尊重することの大切さを理解する。	3ヶ月
2	20	対応できている方とそうでない方に格差がある。一部の方にのみ提供できる状態となっている為、皆にご本人の状態に合わせた提供方法を検討する必要がある。	ご本人にとって馴染みの場所に行くことができるように機会を作り、家族の協力も得ながら、関係性の継続をはかる。	ご本人や家族とのコミュニケーションの中で、自宅で過ごされていた時の様子やよく行っていた場所、大切にしていた物・事を知り、家族との調整を含め、機会を設け、関係が継続できるように支援する。	4ヶ月
3	54	現在、全入居者の居室を毎日掃除しているが、清潔保持にのみ偏った業務となっている為、入居者にとって居心地の良さを重視できていないところがある。	最もその方が落ち着ける事・安らげる事に配慮し、入居者と共に考え、居心地のいい生活空間の構築をはかる。	意識表示できる方はもちろん、そうでない方においては、過去の生活歴や家族と相談する中でどのような配置、どのような物が必要かをミーティング等の機会を通じて考え、実践する。	5ヶ月
4	33	今までターミナルの事例が少なく、介護者主体となってしまっていることがある為、施設内・外における研修会等に参加し、重度化への対応についての基礎を充実させる必要がある。	職員個々の重度化に対する考え方・知識・対応の仕方等の理解を深め、入居者・家族の要望に応える事のできる体制を築く。	今までに実際にあった事例をもとに研修会を開催し、医療との連携や家族との意思確認等を具体的に検討し、知識・対応力を磨く。	6ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。